

# 小学校での畜産ふれあい体験学習 2008

～わくわくいきいきモーモースクール～

美祢市立大嶺小学校

山口市立二島小学校



やまぐち畜産ふれあい体験交流活性化会議  
社団法人 山口県畜産振興協会

はじめに

平成 19 年 10 月に開催した大嶺小学校での「わくわくモーモースクール」では、牧場経営者や畜産関係者が小学校と連携し、小学校で家畜とのふれあい体験を実践しました。半日の体験でしたが、参加した学年の児童全員が家畜にさわり、畜産農家の話しを聞き、バター作りにも挑戦しました。その後も、搾乳体験の牛を提供してくれた酪農家に出前授業に来てもらう、体験の様子を絵に描く、さらには、体験の様子を学習発表会で再現するなど、畜産への関心を深めてもらったと感じています。

平成 20 年度も大嶺小学校で 1 年生を対象にふれあい体験を行いました。さらに、山口市立二島小学校でも放牧和牛を使ってふれあい体験を行いました。

以下にその概要をとりまとめましたので、畜産を活用した「ふれあい体験」を学校が、子ども達がどのように受け止めたのかを紹介します。

本来は、子どもたちに牧場へ来てもらうことが一番の体験なのですが、より多くの子もたちにふれあいの機会をつくること、小学校の体験学習の一貫として行うことで先生方の視点から畜産体験学習を活用してもらうことなどを考えて、今年度要望のあった小学校と連携し実施しました。幸い地元の畜産農家の理解と協力があったので実施することができましたが、まだまだ、ふれあい体験そのものが認知されていないことも事実です。

この冊子は、山口県内の小学校と畜産農家、畜産関係者に配布し、多くの方が関心を持つ機会になることを目的としています。

また、わくわくいきいきモーモースクールにご理解・ご協力を頂いた畜産農家や関係機関の方、学校関係者に、紙面を借りてお礼申し上げます。

平成 21 年 3 月

やまぐち畜産ふれあい体験交流会議  
<事務局> (社) 山口県畜産振興協会

## 目次

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| 1 . 大嶺小学校の様子           | 1 ~ 5 ページ   |
| 開会                     |             |
| 和牛体験                   |             |
| 酪農体験                   |             |
| バター作り体験                |             |
| ふりかえり                  |             |
| 2 . 大嶺小学校の子ども達・先生方の反応  | 6 ページ       |
| アンケート結果                |             |
| 先生のコメント                |             |
| 3 . 二島小学校の様子           | 7 ~ 10 ページ  |
| 開会                     |             |
| 子牛ふれあい体験               |             |
| 放牧牛体験                  |             |
| ふれあいの後                 |             |
| 4 . 二島小学校の子ども達・先生方の反応  | 11 ページ      |
| アンケート結果                |             |
| 先生のコメント                |             |
| 5 . 具体的な準備             | 12 ページ      |
| 6 . 学校でのふれあい体験取り組みの可能性 | 13 ~ 14 ページ |
| 学校関係者の意識               |             |
| 具体的な相談窓口               |             |

## 1. 大嶺小学校の様子

わくわくモーモースクールへ参加したのは、1年生 70 名、保護者 54 名、校長先生、担任の先生 4 名、栄養教諭です。

スタッフは酪農家 3 名、肉用牛和牛農家 3 名、畜産試験場 3 名、酪農乳業協会 4 名、美祢農林事務所畜産部 1 名、畜産振興協会 6 名です。

今回は、3つのメニューを用意しました。

**和牛体験コーナー**；美祢市豊田前と西厚保で和牛を飼い、市内数ヶ所に放牧をしている田邊さんの和牛を連れてきてもらい和牛のお話し。畜産試験場の子牛とふれあい。農林事務所畜産部から山口型放牧のお話し。

**酪農体験コーナー**；酪農家 3 名とサポーターがパネルや搾乳器具を使って乳牛や酪農のお話し。搾乳キットを使っての乳搾り競争。

**牛乳加工体験コーナー**；酪農乳業協会から牛乳のお話し。カッテージチーズの紹介、バター作りにチャレンジ。

**給食タイム**；参加した畜産農家は、3つの教室に分かれて給食交流を行いました。

## 開会



あいさつ  
大嶺小学校 藤本哲城校長  
畜産振興協会 富岡専務理事

1年生代表のあいさつ。





和牛体験；田邊牧場の放牧和牛と畜産試験場の和牛子牛 2 頭が参加しました。



田邊さんの和牛です。大きいのでちょっとしり込みしている？

感想

- ・ 牛は大きかった。
- ・ エサをあげたかった。

畜産試験場の子牛です。  
少し前にきらら物産フェアで多くの方に触ってもらったおとなしい牛です。



田邊さんの牛は市内のあちこちに放牧されています。

保護者感想

- ・ 農家の現状を聞いたことが勉強になった。
- ・ 説明が熱心で、大きい子はまた違うとらえ方ができたのでは？

近くの幼稚園の園児たちも牛を見にやってきました。



酪農体験；乳牛は連れてこれなかったなので、いろいろなグッズを用意し、搾乳キットで乳搾りの模擬体験をしてもらいました。



県畜産試験場の大石さんの説明です。牛の等身大パネルやで牛の大きさを感じてもらおうとしましたが・・・。

下関市豊北町から来てくれた酪農家林さんです。朝、1頭の牛が食べたエサを見せながらの説明です。

感想

・牛のえさがわかった。



美祢市の酪農家 土山さんです。乳を搾るミルカーを説明しています。

搾乳キットを使った乳搾り競争です。

感想

- ・ 乳搾り競争で一番になったのがうれしかった。
- ・ 本物じゃなかったけどおもしろかった。





バター作り体験；県酪農乳業協会がバター作り体験と牛乳を使った料理の紹介を行いました。



酪農乳業協会吉村さんから牛乳ができるまでのお話し。

カッターチーズやホエーを使っのマンゴージュースの実演です。

感想

・バターづくりがおもしろかった。



バター作り体験です。  
持参のペットボトルにクリームと牛乳を入れます。

保護者感想

・食育にもつながるのでよかったです。

しっかり振ると、バターができます。  
バターはクラッカーにつけて試食しました。  
マンゴージュースやチーズの入ったみたらし団子も試食できたようです。



ふりかえり；体験の内容を整理しています。乳搾り競争のチャンピオンには認定証を送りました。



体験が終わった後は、ふりかえりを行っているようです。

感想

- ・ 牛は温かだった。
- ・ もっといろいろ作りたいかった。

農家の方は 1 年生の教室と一緒に給食を食べてもらいました。1年生からの鋭い質問に答えられたでしょうか。



昼休みに他の学年の児童も牛を取り囲んでいました。トラックに積まれると名残惜しそうにしていました。



## 2. 大嶺小学校の子ども達・先生方の反応

体験の後に、一番楽しかったことを選んでもらいました。

学年	和牛とのふれあい体験	酪農コーナ ー	バター作り
1年生	29%	33%	37%
保護者	32%	31%	38%

1年生も保護者もバター作りを選んだ方が多かったです。保護者の方にもアンケートをお願いし、多くのコメントをいただきました。「子供が楽しそうだった」、「日ごろ出来ない体験が出来てよかった」、「勉強になった」というコメントが多かった反面、「1年生には難しい話もあったようだ」、「本物の乳搾りが出来なかったのは残念」という意見もあり、今後の課題も理解することができました。

先生方にもコメントをいただきました。

牛という漠然とした対象を自分の目で見て肌で感じる事ができたのは良かったです。またいろいろなコーナーでそれぞれに詳しいお話が聞けたのも理解が深まりました。

多くのスタッフの方が早朝よりたくさんの準備をしてくださり、児童が種々の体験をさせていただく事ができたことを大変うれしく思います。私自身も和牛や仔牛にふれることが少なく、初めて知ること感ることがたいへん多かったです。

子どもたち（1年生）の反応のすごさ（日頃と比べ）に驚いた。やはり本物に触れ、実際に体験することは素晴らしいなあと実感した。

今年は保護者も参加し、親子教室としてできたことがとても良かったと思います。畜産・酪農あるいは牛乳に関することについても親子で会話する機会が増えたのではないかと思います。実際に牛を育てていらっしゃる酪農家の方々に直接お話をうかがえたことが大変良かったです。

話を聞くときはしっかり聞く。さわったり見たりするときはたっぷり体験するという決まりが守れていないことがいて、説明の方に迷惑をかける場面が何回かありました。せっかく保護者の人にもたくさん来ていただいたが、バター作り以外では遠巻きに見ているだけだったので、もっと声かけをするなどこちら側の工夫が必要であったと思う。

まだまだ、工夫しなければいけないことも多いことを感じています。事前の打ち合わせなどを十分に行うことの必要性も感じました。

### 3. 二島小学校の様子

わくわくモーモースクールへ参加したのは、1年生、2年生、5年生合計57名、保護者2名、校長先生、担任の先生3名です。

スタッフは二島地域で和牛放牧を開始した杵崎の里放牧利用組合長、畜産試験場3名、山口農林事務所畜産部2名、畜産振興協会2名です。

今回は、2つのメニューを用意しました。

子牛ふれあい体験コーナー；畜産試験場から来た黒毛和種子牛2頭とのふれあいと和牛のお話し。

放牧牛体験コーナー；小学校近くの通学路側に放牧されている和牛とのふれあい、放牧のお話し。

給食タイム；参加したスタッフが、3つの教室に分かれて給食交流を行いました。

#### 開会



あいさつ  
二島小学校 坪井淑子校長

杵崎の里放牧利用組合長 村中さんが  
どうして放牧を始めたのかをお話し  
しました。



子牛ふれあい体験；畜産試験場の和牛子牛2頭（「なつみ」「るか」）が参加しました。



まず、子牛を驚かさないように触ってもらいます。

**感想**

- ・ 牛がふかふかしていた（1年）
- ・ 牛は温かかった（2年生）
- ・ 牛の体温は人間より高いことにおどろいた（5年生）

**<鼻紋（びもん）採取>**

子牛の鼻になにやら黒い墨のようなものをローラーで塗りつけます。



上手に鼻の模様が取れたようです。

畜産試験場の伊藤さんが和牛について説明しています。

**感想**

- ・ 牛を飼っている理由がわかってよかった（5年生）





放牧牛体験；畜産試験場からレンタルした黒毛和種と無角和種が通学路側の耕作放棄地に放牧されています。



学年ごとに大きな和牛に触ることにしました。

感想

- ・ 牛のボスはちょっとこわかった(1年生)

日ごろは自由に草を食べている牛なので、じっとしているか少し心配でしたが、扱いが上手だったのか、最後までおとなしくしてくれました。



山口農林事務所畜産部宗綱さんのお話です。

感想

- ・ 牛は頭がよくて、痛いと思ったらもうしないというのがすごい(5年生)

これは、無角和種です。黒毛和種よりも元気がいい牛なので、鋼管パイプ越しに大きなお腹に触りました。



ふれあいの後；放牧地ではカラカラの糞を見つけたり、昼休みも興味のある子供たちが子牛の周りに集まってきます。時間のある限り、牛とふれあってもらいました。



2年生が投げているのは、カラカラに乾いた牛の糞です。  
校長先生におみやげとして一つ持ち帰ったとか。

学校に帰ってから、スタッフへのお礼

感想

・牛が草を食べ、その糞が肥料になるのだから一石二鳥だと思った（5年生）



牛が来ていることを聞いて、近くの保育園の園児たちが牛を見に来ました。

感想

・牛の生まれるところが見たい（2年生）

昼休みに他の学年の児童達も牛を触りにやってきました。  
獣医師でもある畜産試験場のおじさんから牛の心臓の音を聞かせてもらいました。



#### 4. 二島小学校の子ども達・先生方の反応

体験の後に、一番楽しかったことを選んでもらいました。

学年	放牧の話	子牛とのふれあい	身体測定	その他
1年生	26.3%	34.2%	23.7%	15.8%
2年生	27.1%	42.4%	23.7%	6.8%
5年生	29.4%	50.0%	20.6%	0.0%

どの学年も牛とのふれあい体験が印象に残ったようです。1年生と2年生のその他が何か？はわかりませんが、アンケートの設問のような範疇ではないものを感じたようです。

先生方にもコメントをいただきました。

今回のふれあい体験では、指導する教師の感動するほどの場を計画的に設定して下さった、多くの関係者の皆様に大変感謝申し上げます。「百聞は一見にしかず」、今、絵本やテレビ、インターネットなどで牛についての情報はいくらでも得ることはできますが、直接体験でしか得られないすばらしい感動をいただきました。二島小では初めての体験活動でしたが、子どもたちや教師や保護者にとっても、ふるさと二島一生の思い出となり、時々ふっと頭にうかんできて、あたたかい気持ちになると思います。

普段接することのない牛とふれあえ、鼻紋をとったり、触って温かさを感じたり、とても貴重な体験だったと思います。なぜ田んぼに牛が放牧されているかなど知識の面でも丁寧に説明していただき、児童も牛について理解できたと思います。有難うございました。

子ども同様、「牛ってなんてかわいいんだろう、なんてあたたかいのだろう」と素直に感じました。二年の生活部の学習で「二島探検」の折、放牧されている牛を遠くから眺めて、「なんでここにおるんかねえ」なんて話していたところだったので、とてもちょうどよく、二島のよさをさらに知る良い機会になりました。

絵や文、写真を通して得た知識だけで「牛を知っている」と思いこんでいた...と気づいた児童も多いのではないのでしょうか。わたし自身は、幼少の頃、祖母の家にいた牛にふれたことはありましたが、その後ずっと牛にふれることはなかったので、「本物の牛はこんなにも温かく、瞳がきれいだったのだ」ということを思い出しました。牛にふれて何だか心がほっかりしました。

和牛だけのふれあい体験でしたが、突然草だらけの田んぼにやってきた和牛を見ていた子どもたちや先生方にタイムリーな体験だったようです。



## 5 . 具体的な準備 ;

大嶺小学校では、畜産農家が参加しましたので、酪農家が使う道具や飼料を持ってきてもらいました。牛は両校ともグラウンドの鉄棒を利用しました。糞を除去するスコップや一輪車は小学校にあるものを利用しました。手洗いについては、はじめの諸注意でも念を押しましたが、小学校は手洗い場がたくさんあるので、短時間で多くの児童が手を洗うことが出来る出来るメリットを感じました。

- 牛 ; 子牛は県農林総合技術センター ( 畜産試験場 ) で生まれ、人の手で哺育し、よく馴らした子牛 2 頭を用意しました。大嶺小学校は地元田邊牧場の放牧牛をトラックで持参。二島小学校では、歩いていけるところに電気牧柵で囲ってある杵崎の里放牧利用組合が管理している放牧牛を利用。
- 当日の衛生対策 ; 牛到着時の洗い場、糞の除去用一輪車、スコップの確認 ( 小学校 )。石鹼による手洗いの徹底。
- 説明グッズ ; 協会作成ポスター、県酪農乳業協会資料、酪農教育ファーム資料、和牛の放牧について紹介するポスター、電気牧柵一式 ( 美祢農林事務所畜産部作成 )、二島地区の放牧地説明ポスター ( 山口農林事務所畜産部作成 )
- 説明資料 ; それぞれ体験メニューに関連ある内容について、畜産振興協会で作成。
- スタッフの衛生関係 ; 各体験後手洗いを励行
- 搾乳キット ; 県酪農乳業協会持参の搾乳模擬体験キット 3 つ ( 大嶺小学校 )
- 搾乳牛が朝食べてきた飼料 ; 土山牧場から乳牛 1 頭に給与する飼料と同じ品目・量を準備 ( 大嶺小学校 )
- 酪農家の機器 ; バケツミルカー、参加酪農家が持参 ( 大嶺小学校 )
- バター作り ; 酪農乳業協会は、バター作り材料、カッテージチーズ材料、マンゴーピューレを用意。シェイクするペットボトルは児童が持参 ( 大嶺小学校 )

## 6. 学校でのふれあい体験取り組みの可能性

学校関係者の意識・・・平成17年度ふれあい報告書に周南市立福川小学校藤井幸司先生から特別寄稿を頂きました。寄稿頂いた際に、学校関係者へのメッセージを頂きました。モーモースクールとは違い、子どもたちが牧場へ出向くための心得として、大切なメッセージだと感じており、ここで再度紹介します。

### 教育現場の先生方が考えなければならないこと

- 何を目的として、酪農体験学習をさせるのかをまず、教師自身が明確にしておくことが大切である。牧場へ行けば何かをさせてもらえるだろうという安易な考えで学習を実施することは牧場の方にも失礼であるし、牧場の方自身も「どんな場を提供したらよいか」という点でも迷われることだろう。
- 保健面、安全面での問題をクリアしておきたい。特に学級内にアレルギーを持っている子どもがいる場合は、保護者とよく相談をして実施する必要があると考える。
- 学校内での理解をきちんと得ること。学習の主旨を先生方や保護者にも説明し、目的や方途をきちんと共通理解しておきたい。
- 学習の進め方(地域に密着した牧場で長時間に渡って実施するパターン、遠足や修学旅行で実施するパターン)について、しっかり研究しておく必要がある。教師側が具体的な活動計画を立案し、牧場の方と綿密な打ち合わせを事前しておくことが大切である。
- ウシとのふれあいはばかりに目を奪われがちであるが、一番重要なのは牧場で働くおじさんやおばさんの生き様である。ウシたちへの愛情や仕事への責任感、誇り等をしっかり感じ取らせたいものである。見学の事前指導を生徒にきちんと徹底させておくこと。牧場の方への礼儀面やウシたちとの接し方など・・・。

### 具体的にふれあい体験をやりたい方は・・・

社団法人山口県畜産振興協会では、これまでの体験交流実績から「ふれあい体験」が子どもたちへ与える<教育>や<癒し>の効果は、これからの社会的に求められてくるものと感じています。牧場は<生産・加工の場>だけでないことを知ることで、畜産への理解、畜産物の理解にもつながります。

畜産振興協会は、平成20年度から3年間をかけて、各種関係機関と連携し、「ふれあい体験」を推進します。受入れる牧場を増やすことが前提ですが、二島小学校の事例のように、山口県で多く見られる放牧されている牛を活用することも可能です。紹介した事例に興味をもたれた学校の相談に応じて調整を図りたいと思います。教育機関、生産現場、関係機関一体となって取り組めるよう調整支援していきたいと考えています。

## < 畜産の関係機関 >

### 山口県農林水産部

流通企画室	〒753-8501 山口市滝町 1-1 TEL 083-933-3556 FAX 083-933-3359
畜産振興部	〒753-8501 山口市滝町 1-1 TEL 083-933-3430 FAX 083-933-3449

### 山口県内農林事務所畜産部・農林総合技術センター

岩国農林事務所畜産部	〒740-0016 岩国市三笠町 1 丁目 1-1 (岩国総合庁舎 4 階) TEL 0827-29-1564 FAX 0827-29-1595
田布施農林事務所畜産部	〒742-0031 柳井市南町 1-10-3 TEL 0820-22-2416 FAX 0820-22-2453
周南農林事務所畜産部	〒745-0004 周南市毛利町 2-38 TEL 0834-22-0660 FAX 0834-22-0938
山口農林事務所畜産部	〒754-0897 山口市嘉川 671-5 (分庁舎) TEL 083-989-2517 FAX 083-989-2518
美祢農林事務所畜産部	〒759-2212 美祢市大嶺町東分 3449-5 TEL 0837-52-1070 FAX 0837-52-1689
下関農林事務所畜産部	〒750-0421 下関市豊田町殿敷 1892 TEL 0837-66-1018 FAX 0837-66-0239
長門農林事務所畜産部	〒759-4401 長門市日置町日置上 1372-2 TEL 0837-37-2155 FAX 0837-37-2590
萩農林事務所畜産部	〒758-0061 萩市椿 3621-1 TEL 0838-22-5677 FAX 0838-22-2285
農林総合技術センター 畜産技術部	〒759-2221 美祢市伊佐河原 1200 TEL 0837-52-0258 FAX 0837-52-4832
農林総合技術センター 農業研修部	〒747-0004 防府市牟礼 318 TEL 0835-38-0510 FAX 0835-38-4115

### 山口県内畜産関係団体

社団法人 山口県畜産振興協会 (ふれあい事業事務局)	〒754-0002 山口市小郡下郷 2139 県 J A ビル TEL 083-973-2725 FAX 083-974-1030 HP <a href="http://yamaguchi.lin.go.jp/fureai/index.html">http://yamaguchi.lin.go.jp/fureai/index.html</a>
山口県酪農乳業協会	〒750-0324 下関市菊川町大字久野 556-3 TEL 0832-87-1711 FAX 0832-87-1713

### 山口県内ふれあい体験支援組織

NPO法人 きららの里	〒759-2221 美祢市伊佐町河原 TEL 0837-53-0500 FAX 083-974-1030 HP <a href="http://www.socio.gr.jp/kirara/">http://www.socio.gr.jp/kirara/</a>
-------------	---

## < 作成・編集・問合せ先 >

社団法人 山口県畜産振興協会(やまぐち畜産ふれあい体験交流活性化会議 事務局  
清水誠)